

『シーバード肥後ながす』が開所!!

6月10日、町 B&G 海洋センター艇庫で、シーバード肥後ながす（中尾政光代表）の開所式が行われ、来賓や関係者など約70人が参加しました。

これは、水上オートバイを活用した社会貢献活動として全国展開しているシーバードジャパンの組織で、全国では40番目、県内では2番目の拠点として誕生しました。

中尾代表は「水辺のパトロールに限らず、水上オートバイの体験など、子どもたちが楽しく海を学べる活動を展開していきます」と話しました。



活動のテーマは「水辺の安全と楽しみを次世代につなげよう」

興亜建設工業(株)の厚意に感謝して

6月12日、町役場で興亜建設工業株式会社（末吉益美代表取締役）に感謝状を贈呈しました。

これは、雨天時の水たまりやでこぼこが目立っていた町中央公民館の駐車場を利用者に快適に利用してほしいとの思いから、ボランティアで整備が行われたものです。

作業は6月1日から3日間かけて行われ、駐車区画線も張られるなど、利用しやすい駐車場に生まれ変わりました。

末吉代表取締役は「これからもできることは協力していきたい」と話しました。



感謝状を受け取る末吉代表取締役（左）



取り組みが土木学会で評価され技術賞を受賞した福岡大学渡辺教授（右）

さらなる連携強化で水産資源の回復を!!

6月9日、町長は福岡大学を表敬訪問し、町と福岡大学と熊本北部漁業協同組合が水産振興に向けてさらなる連携強化を図ることを確認しました。

これは、平成27年に結んだ産官学連携協定に基づき、福岡大学が研究を進めているフルボ酸鉄シリカ資材（水質浄化作用）を活用して、長洲海岸地先で実証試験・研究を実施しています。

その成果としてヘドロが減少し砂地が現れ潮干狩りが体験できるまでに干潟環境が改善しました。この取り組みはメディアなどにも取り上げられ、大きな注目を浴びています。



島崎養魚組合副組合長（左）から金魚の話を教えてもらいました

長洲町の魅力を体感!!

6月11日、町と熊本ものづくり塾、町養魚組合、熊本北部漁業協同組合が連携して産業体験ツアーを開催しました。

この取り組みは、次世代を担う子どもたちを対象に町の宝である地域資源（あさり・金魚）を活用して、金魚に関する学習や潮干狩りなどを体験することで、産業の魅力を発見することを目的としています。

参加した子どもたちは「あさがりが美味しい」「金魚を大切に育てます」「長洲町が好きになりました」と町の宝を満喫しました。

古城區で防災訓練を実施

5月21日、古城區（橘馨區長）は、ひまわり幼稚園前の消火栓で防災訓練を行いました。

これは、區民の防災意識の向上を図るため區が毎年実施しているもので、この日は區民約30人が参加。區的消防団員の指導のもと、消火栓からホースを繋げて放水の訓練を行いました。橘區長は「非常時に備え、訓練を続けていくことが大切」と話しました。



消火栓の使い方を教わる區民

長洲海岸で採れたあさり貝を贈呈!!

6月6日、熊本北部漁業協同組合（上田浩次代表理事組合長）から町の園児に長洲産あさり貝が贈呈されました。この取り組みは、6月5日に開催された潮干狩り体験に参加した町内の子どもたち（園児）にあさり貝のおいしさや有明海の大切さを学んでほしいと実施されたものです。なお、寄贈されたあさり貝は、翌日の給食に出されて、子どもたちは長洲の海の恵みを堪能しました。



贈呈式に参加した各園代表の園児たち



けがをしないようにみんなでストレッチ

活動をとおして區民の親睦を（新山区）

5月14日、新山区（島永邦生區長）は、資源ごみ回収やウォーキングなどの活動を行いました。

この日は、約60人の區民が参加し、区内の環境美化や体力づくりに努めました。

島永區長は「今までは資源ごみ回収だけで終わっていましたが、試験的にウォーキングとグラウンドゴルフと一緒に開催しました。多くの區民が参加してくれたので、今後も続けていきたい」と話しました。



潮干狩りを楽しむ子どもたち

潮干狩り体験が出来るまでに干潟が回復!!

6月5日、長洲・牛水地域干潟保全会（上田浩次代表）は干潟環境学習として、町内保育所・幼稚園児、小学生を対象に潮干狩り体験を実施し、約700人が参加しました。

この日は福岡大学、熊本北部漁業協同組合と町が干潟改善を目指す、フルボ酸鉄シリカ資材を活用した試験区を解放。子どもたちは環境が改善された干潟で「また来年も来たい」「海を大切にしていきたい」と笑顔で話していました。